



令和 8 年 8 月 19 日
厚木市報道資料

1 秒でも早い救急搬送を 救急 D X ・ 傷病者情報共有システムの運用を開始

増加する救急事案に対してより迅速で円滑な搬送を実現するため、タブレット端末を使って医療機関と情報を共有する「救急 D X ・ 傷病者情報共有システム」を導入します。9 月中旬から試行し、10 月 20 日から運用を始めます。

1 概要

救急の現場で、傷病者の情報を医療機関と共有するシステムを導入。医療機関に伝える情報の精度と速度を高め、受け入れ照会の迅速化に取り組みます。

2 目的・背景

令和 7 年中の救急出動件数は、14,978 件で過去最高を記録しました。高齢化の進展や感染症の流行などを理由に、今後の救急件数は高水準での推移が予想されます。救命の現場では、1 分 1 秒でも早い搬送が救命につながるため、必要な情報を医療機関へより早く正確に伝えることが重要となります。

3 P R したい内容、事業のポイント、前回との違いなど

- ・ 県内では、先進的な取り組みとなる生成 A I 機能を搭載。救急隊員の口頭報告を A I が解析し、必要な情報をシステムへ自動入力します。現場での入力作業を減らし、隊員は傷病者の対応に集中できるようになります。
- ・ 心電図の特徴的な波形やけがの状態を送信でき、身分証明書や血圧の測定結果なども写真を撮るだけで瞬時に正確に登録します。
- ・ 隊員が収集した情報は、ボタン一つで医療機関へ送信。医療機関は傷病者の到着前に状態を把握でき、より早く適切な治療の開始に備えられます。

4 予算額

2,954 万円

5 他市の状況

県内では横浜、藤沢、秦野市などが導入済みです。

6 添付資料

救急 D X ・ 傷病者情報共有システムについて

本資料の問い合わせ先

消防本部救急救命課

課長 佐藤 幸子 電話 046-223-9365

救急DX・傷病者情報共有システムについて

1 事業概要

市内における令和7年中の救急出動件数は、14,978件で過去最高を記録しました。今後も増加が予想され、市民のセーフティーネットである救急業務の安定的かつ継続的な提供が求められています。

このような背景から救急隊と医療機関の情報伝達を円滑に行い、より迅速かつ正確な救急搬送を行うため「救急DX・傷病者情報共有システム」の運用を開始します。

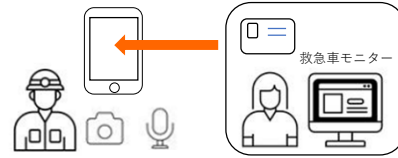
2 傷病者情報共有システム運用開始日

令和8年10月20日（予定） ※9月中旬から試験的に運用します。

3 連携医療機関

厚木市立病院、東名厚木病院、湘南厚木病院、仁厚会病院、愛川北部病院、東海大学医学部付属病院

4 システム概要とメリット

出動	現場到着・傷病者接触	医療機関受入要請	医療機関到着
現状	 手書きメモによる 情報収集	 主訴、現病歴、既往歴 薬情報を電話で口頭連絡	 手書きの活動記録票を 作成、病院へ引き継ぎ
導入後	 ・保険証、身分証明書などをOCR（光学文字認識）で自動データ化 ・心電図、事故状況を撮影	 ・タブレット端末でデータ送信 ・医療機関もリアルタイムで傷病者の情報を確認 ・傷病者受け入れ可否の早期判断	 ・救急車の到着前に傷病者を受け入れるために準備 ・検査や治療の早期開始

① 傷病者を受け入れる医療機関決定までの時間を短縮

デジタル化された正確な情報を医療機関と共有することで、受け入れ先の医療機関を決定するまでの時間短縮が図られます。

② 救急現場の情報収集を効率化

生成AIやOCR機能（紙や画像に含まれる文字を認識し、デジタルデータに変換）により情報収集の効率化を図ります。

③ 病院到着後の治療開始の迅速化

傷病者の正確な情報を医療機関へあらかじめ送信することで、治療や検査の準備を前倒し。医療機関に到着後の治療開始を早めることが期待されます。

5 市民の皆さまへのお願い

医療機関に正確な情報を伝えるため、救急隊員が活動中にタブレット端末を操作します。負傷部位の画像や氏名などの文字情報を収集するため、撮影の許可をお願いする場合があります。ご理解とご協力をお願いします。



問い合わせ先 厚木市消防本部 救急救命課 電話 (046) 223-9365
メール 6550@city.atsugi.kanagawa.jp